

令和7年度
みんなでつくるまち活動補助金 成果報告

ふりかえりシート集



令和7年度 長久手市みんなでつくるまち活動補助金 ふりかえりシート

団体等名称 長久手そば打ち愛好会

事業名 そば打ちで「地域の活性化」「食文化の伝承」

※ 事業の中で複数の活動をした場合は、①、②のように番号を振り全ての活動について記入してください。

1 事業の実施結果（対象者、事業内容、参加人数など）

- ① 親子そば打ち体験：小学生、夏休み・冬休みの4日間で90名、シルバー人材センター
- ② 不登校の子供たちとそば打ち体験：8/26、小中学生、夏休み、10名、N-ハウスあい
- ③ 障害者施設の子供たちとそば打ち体験：10/4、小中12名、放課後デイサービス ポカラポット
- ④ 長久手市福祉まつり：10/19 一般、そば提供と体験、約200名、あぐりん村
- ⑤ 地域シニアクラブ：10/30、11/28 そば提供と体験、約40名、丁子田・蟹原のシニアクラブ

2 事業の成果（事業によって解決できたこと、参加者の反応など）

- ① 親子そば打ち体験：小学生、夏休み・冬休みイベントとして定着してきた。高倍率の申込み
- ② 不登校の子供たちとそば打ち体験：初の試みとして体験活動を開始できた。
- ③ 障害者施設の子供たちとそば打ち体験：自分で打った そばを皆に試食してもらえた。
- ④ 長久手市福祉まつり：伝統食文化である「そばの魅力」の普及に努め、とても盛況でした。
- ⑤ 地域シニアクラブ：シニアの方々に新そばを楽しんで頂いた。

3 連携した取組（連携先、事業において連携できたことなど）

- ① 親子そば打ち体験：長久手市シルバー人材センター
- ② 不登校の子供たちとそば打ち体験：長久手市 N-ハウスあい、教育委員会
- ③ 障害者施設の子供たちとそば打ち体験：放課後デイサービス ポカラポット長久手
- ④ 長久手市福祉まつり：社会福祉協議会、あぐりん村、栄徳高等学校
- ⑤ 地域シニアクラブ：丁子田シニアクラブ、ザ・シーズンズ シニア会

4 問題・課題（補助事業を通して気付いた点、課題など）

- ・新たに 教育支援センター N-ハウスあい と連携し、不登校の子供たちと そば打ち体験活動を開始できました。今後の定着を目指します。
 - ・福祉まつりで、あぐりん村と連携でき、今後、伝統野菜「真菜」を活用した真菜そばへの展開の可能性が出てきました。
 - ・今後も 地域に貢献できる活動に積極的に参加していきます。
- 上記の活動に必要な訪問そば打ちの道具類は、補助金 ¥146,000 を活用し購入できました。ご支援ありがとうございました。

5 新たな展開（今後の目標、新たに取り組みたいことなど）

- ・各種イベントへ参加や福祉施設、地域への訪問活動により、「そば」を味わい、また、希望者には、そば打ち体験を通じて、「そば」の普及が進み、地域の活性化に貢献していきます。
- ・不登校の子どもたちと一緒に実施する一連のそば打ち作業は、作業を通して 自主性、主体性を育む多くの機会を生み、対人関係の広がりが期待できます。
- ・「真菜」を始めとする食育イベントには、これからも積極的に参加し、人的な充実と会員自身のそば打ち技術の向上に努めることと相まって、我が国伝統の食文化の一つである「そば」を次世代に継承していきます。

6 補助事業の写真（補助事業の様子が分かるものを添付してください。）



④ 長久手市福祉まつり
長久手そば打ち愛好会
栄徳高等学校(ボランティア)



① 親子そば打ち体験
夏休み・冬休み
シルバー人材センター

④ 長久手市福祉まつり：

10/19 一般向け、そば提供とそば打ち体験、約200名来場、あぐりん村で実施
伝統食文化である「そばの魅力」の普及に努め、とても盛況なイベントでした
連携先： 社会福祉協議会、あぐりん村、栄徳高等学校

① 親子そば打ち体験：

小学生の親子参加、夏休み・冬休みの4日間で約90名参加、シルバー人材センターで実施。小学生、夏休み・冬休みイベントとして定着してきた。高倍率の申込み状況
連携先： 長久手市シルバー人材センター

令和7年度長久手市みんなでつくるまち活動補助金 ふりかえりシート

団体等名称 長く手をつなぎ いのちを語る会

事業名 なが〜く いのちを語るまちプロジェクト ～長久手からはじまる、世代を超えた対話とつながり～

※ 事業の中で複数の活動をした場合は、①、②のように番号を振り全ての活動について記入してください。

1 事業の実施結果（対象者、事業内容、参加人数など）

- ① お空の赤ちゃんママのおしゃべり会（流産・死産・新生児死を経験したママに向けた分かち合いの会、7回開催・参加人数7人、うち長久手市内3人、他市4人）
- ② 絵本カフェ（絵本を通じていのちの大切さを語るカフェ、1回開催・参加人数1人）
- ③ いのちのカフェ（どんないのちの話もできるカフェ・5回開催・参加人数50人）

2 事業の成果（事業によって解決できたこと、参加者の反応など）

- ① 参加者にアンケートを実施（7人全員が「参加してとても良かった」、安心して話せる場所だったか？に対して、6人が「とても安心できた」、1人が「安心できた」、会の満足度は7人全員が「とても満足」と回答、自由回答として「悩んでいるのは自分だけじゃないと思いきが安らいだ」「普段なかなか話せないことを話せてとても良かった」「自分の気持ちを再認識できた」、約15年前に死産したママから「あの時にはこんな会はなかったので、参加できて良かった」との回答を得た
- ② 絵本が好評であった
- ③ 「話を聞いてもらえて良かった」「ゆっくり話せて良かった」との反応があり、「いのちのカフェ」のコンセプトを伝えたことで、過去の子どもの別れの経験を話され「話せてスッキリしました」と帰って行かれた

3 連携した取組（連携先、事業において連携できたことなど）

- ・伊藤真規子市議会議員と、長久手市保健センター保健師2人と流産・死産後のママのケアについて意見交換した
- ・長久手市内の豊善院の坊守様（グリーフケア資格取得者）と情報交換、連携可能とのこと
- ・NPO法人ながいくからのご紹介で、おしゃべり会に参加される方が増えた
- ・哲学カフェ主催者の方から、絵本カフェにおすすめの絵本をご教示いただいた
- ・西小校区共生STの前田さん、宗さん、安富さん、さえずりカフェの渡辺さんの協力を得た
- ・長久手市立南中学校の家庭科プレゼン日に、松本先生の許可を得て、学生に産着制作事業や、いのちの大切さを伝える機会を得た

ふりかえりシートは、A4用紙2ページ以内で記入すること。

4 問題・課題（補助事業を通して気付いた点、課題など）

- ① Instagram を見て参加されるママは、市内よりも市外の方が多かった。託児あり・託児なし、申込あり・申込なしなど条件を変えて実施したが、託児を希望される方はいなかった
- ② イベント告知が直前になってしまい、十分な告知ができず、参加者が少なかった
- ③ 「話ができて良かった」との反応があったが、一般的なお茶会ではなく、「いのちのカフェ」であるというコンセプトを伝え、実施する必要性を感じ、3月に追加説明して実施した。

5 新たな展開（今後の目標、新たに取り組みたいことなど）

・「お空の赤ちゃんママのおしゃべり会」は、参加人数は少ないながらも、市内・市外ともにニーズがあること、経過した年月では測ることができない心の傷が残っていることを痛感した。長久手市に限らず、近隣のママ達が参加したいタイミングで参加できる会合を継続開催するため、スタッフの藤代が行っている「天使ママの会」に組み込んで開催していくことにする

・「いのちのカフェ」は、参加者が少ないことを受け、西小校区共生ステーションの体操教室後の直接告知・チラシ配布を行い、70～90代女性が数多く参加された。幼少期のこと、両親・兄弟のこと、人生全体の教訓や振り返りのお話しができる場として喜んでもらえたが、大人数では込み入った話はしづらいのではないかと思われ、二部制を導入した、第一部ではお茶会とし、第二部では「いのちのカフェ」として、よりプライベートな話題を傾聴できるようにした

今後は「さえずりカフェ」と合同で開催し、より深くお話しを傾聴できる環境を整えていく

6 補助事業の写真（補助事業の様子が分かるものを添付してください。）

1

2

3



（写真の説明）

1. 10月31日に、長久手交流プラザで開催の「お空の赤ちゃんママのおしゃべり会」に2人のママが参加され、スタッフ4人を混じえて90分間、傾聴しながら対話した
2. 12月9日に、リコモテラスの個室で開催の「バルーンフラワーワークショップ」に4人参加され、制作後に今ある健康や病気、いのちについての対話ができた
3. 西小校区共生ステーションで2月13日と3月13日に開催した「いのちのカフェ」に合計45名が参加、「いのちのカフェ」のコンセプトを理解し、いのちの話をされる方が増えてきた

ふりかえりシートは、A4用紙2ページ以内で記入すること。

令和7年度長久手市みんなでつくるまち活動補助金 ふりかえりシート

団体等名称 ながくて公共交通応援隊

事業名 みんなで歌おう！N-バスソング！

※ 事業の中で複数の活動をした場合は、①、②のように番号を振り全ての活動について記入してください。

1 事業の実施結果（対象者、事業内容、参加人数など）

- 音楽スタジオと調整→編曲、演奏、歌唱も依頼できた
- 日程調整→録音、ジャケット作成、コピー
- 各所で披露→小中学校、保育園、子育て支援施設などに CD 配布、楓まつり・冬フェスで演奏
- N-バス車内で放送、市 HP にアップ

2 事業の成果（事業によって解決できたこと、参加者の反応など）

- ・市内スタジオで録音をしたことで、公共交通に今までかかわってこなかった市民に、N-バスソングや当団体の活動を知ってもらうことができた（3 団体 36 人）
- ・市内イベントに参加し、各回 20～50 人に認知してもらえた。
- ・市内小中学校 9 校及び公営保育園 6 園の校内・園内放送により児童に周知できた
- ・バス車内での放送で N-バスを利用した乗客が耳にすることができた

3 連携した取組（連携先、事業において連携できたことなど）

- ・ウィークエンドスタジオ、ミュージカル SPICA、各演奏家→スタジオ利用、編曲、演奏家 仲介、演奏、歌唱、ミキシング
- ・教育総務課、こども未来課→CD 配布協力
- ・安心安全課（運行委託：名鉄バス㈱）→車内放送協力
- ・NPO 法人ながいく→周知協力、N-バス車内広告掲出協力

4 問題・課題（補助事業を通して気付いた点、課題など）

- ・著作権問題
- ・全く違う分野で活動している方々との調整（文化の違い）

5 新たな展開（今後の目標、新たに取り組みたいことなど）

・N-バスソングを引き続き広げていく
吹奏楽部での演奏、市役所内での放送など

6 補助事業の写真（補助事業の様子が分かるものを添付してください。）



▲できあがったCDのジャケット▲



◆ 楓まつりでの披露



▲SPICAさんのインスタ投稿

令和7年度長久手市みんなでつくるまち活動補助金 ふりかえりシート

団体等名称 愛知淑徳大学 石丸ゼミ

事業名 長久手の新しい観光スタイルの提案—イベント

※ 事業の中で複数の活動をした場合は、①、②のように番号を振り全ての活動について記入してください。

1 事業の実施結果（対象者、事業内容、参加人数など）

- ① 長久手お気に入りスポットアンケート/長久手市民 78 名/33 箇所の回答あり
- ② 謎解きイベント協力者/リニモテラス公益施設、景行天皇社、ひまわりネットワーク、生涯学習課、モリコロパーク、冬青珈琲店、福祉の家、イオンモール長久手、長久手市商工会、愛知淑徳大学
- ③ 動画制作協力/長久手市劇団 座★NAGAKUTE、加藤 SHOW 氏、岩田勉氏、ものラボスタジオ
- ④ 謎解きイベント参加者/市内外 186 名 未就学児～70 代以上まで

2 事業の成果（事業によって解決できたこと、参加者の反応など）

- ① 長久手市民の地元愛を知ること、それを 130 名以上の多くの方と共有することができた
- ② 動画の制作により、長久手の歴史を映像化することで参加者に知ってもらうことができた
- ③ 謎解きへの 186 名の参加者に長久手を回遊してもらうことで、今まで未知だった市内の各地を知っていただくことができた。家族や知人との交流を深めることができた。
- ④ 長久手古戦場記念館でのイベントに繋げることができた。

3 連携した取組（連携先、事業において連携できたことなど）

- ① 生涯学習課に、色金山歴史公園、御旗山での撮影許可、イベント当日の使用許可の協力
- ② 長久手市商工会には、ポスターの掲示、ちらしの郵送の協力
- ③ 地域共生推進課より、南小校区共生ステーション、福祉の家の会場使用の協力
- ④ 長寿課に福祉の家使用の協力
- ⑤ 景行天皇社、ひまわりネットワーク、モリコロパーク、冬青珈琲店に撮影、会場使用許可
- ⑥ 長久手市劇団 座★NAGAKUTE のみなさんに出演協力
- ⑦ リニモテラス公益施設、イオンモール長久手には、ポスター掲示、当日会場使用の協力

4 問題・課題（補助事業を通して気付いた点、課題など）

長久手市民全体への告知が難しかった。インスタグラムや Web サイトでの告知、チラシ・ポスターの公共施設への配布、最終的には中日新聞・毎日新聞・日本経済新聞への折り込みチラシ、愛知県の観光ポータルナビへの掲載などを行ったが、やはり小・中・高生の参加が少なかったことからその年代への告知方法が課題となる。

ふりかえりシートは、A4用紙2ページ以内で記入すること。

5 新たな展開（今後の目標、新たに取り組みたいことなど）

4月26日に長久手古戦場記念館オープニングイベントで謎解きイベント第2弾を行うことになったため、今回の内容や進行などを踏まえ改善し、より中身の濃いイベントになるよう努めていきたい。また、小牧・長久手の戦いについての理解や長久手の魅力スポットのPR方法についても新しい展開方法を検討していきたい。

6 補助事業の写真（補助事業の様子が分かるものを添付してください。）



（左上）御旗山での動画撮影

（左下）告知用のWebサイトのTOP画面

（右上）イベント終了時のリリモテラス公益施設でのスタッフ集合写真

（右下）リリモテラス公益施設でのイベントスタートの様子

ふりかえりシートは、A4用紙2ページ以内で記入すること。

令和7年度長久手市みんなでつくるまち活動補助金 ふりかえりシート

団体等名称 子づれ備災クラブ

事業名 楽しく備える！おやこ防災イベント

※ 事業の中で複数の活動をした場合は、①、②のように番号を振り全ての活動について記入してください。

1 事業の実施結果（対象者、事業内容、参加人数など）

- ①体験イベント：小中学生とその保護者：各団体が体験ブース出展：70名参加
- ②講座：乳幼児親子：0歳からの防災教育に関する講座：8名
- ③出張ソナエル：特定の対象を定めない：4組
- ④交流会：市内防災活動団体：グループワークを含む交流会：12名

2 事業の成果（事業によって解決できたこと、参加者の反応など）

- ①イベント目的ではない層にもリーチできた。出展団体同士の交流ができた。各家庭での備えを促す情報提供ができた。（アンケート別紙）
- ②初参加の親子がいた。今後の事業につながる内容になった。コラボにより普段おやこ防災に関わらない層とつながれた。
- ③普段と違う層におやこ防災の情報を伝えることができた
- ④初参加の層とつながり、情報交換のオープンチャットを作成した。（アンケート別紙）

3 連携した取組（連携先、事業において連携できたことなど）

- ①愛知医大地域連携部門（略称）、市社協ボランティアセンター、安心安全課、都市計画課、教育総務課、防災ママかきつばた、長久手市アマチュア無線クラブ、むつみ会
 - ▲各立場から備えを促す情報発信、体験の提供、学生と保護者の交流、団体同士の交流
- ②エンジェルランプ、おはなしの会なんじゃもんじゃ、市社協ボランティアセンター
 - ▲講師、会場の提供、イベント広報のサポート、防災紙芝居の上演
- ④市社協ボランティアセンター、エンジェルランプ、安心安全課
 - ▲会場提供、広報・集客サポート、講話用資料提供と指導

ふりかえりシートは、A4用紙2ページ以内で記入すること。

4 問題・課題（補助事業を通して気付いた点、課題など）

①協力団体増加で会場が手狭、行政複数課とかかわる場合の庁内調整

②特定の層を主対象とした場合の周知の困難さ

③市担当課と協力する困難さ

全事業を通して、補助金交付決定からの実施の日程が短いため、会場確保や講師、行政との調整が困難。市内で行事を開催する時に、会場設定（アクセス、キャパ、動線）が難しい。

5 新たな展開（今後の目標、新たに取り組みたいことなど）

①来年度以降も継続の見込み

②講師と日程があれば、来年度も開催

③恒例行事化（安心安全課と調整）に向けて動く。オープンチャットを活発に維持する。

6 補助事業の写真（補助事業の様子が分かるものを添付してください。）



ふりかえりシートは、A4用紙2ページ以内で記入すること。

令和7年度長久手市みんなでつくるまち活動補助金 ふりかえりシート

団体等名称 こどもがつくるまち実行委員会

事業名 こどもがつくるまち

※ 事業の中で複数の活動をした場合は、①、②のように番号を振り全ての活動について記入してください。

1 事業の実施結果（対象者、事業内容、参加人数など）

- ① こども実行委員会：小学4年生～中学3年生 5名
イベントを実施する数ヶ月前から定期的に打ち合わせ（実行委員会）を実施し、どのようなまちにするか、どのようなルールにするのかなどを話し合う会を実施する。
- ② こどものまち当日：小学1年生～小学6年生 100名
子ども実行委員の子達が考えたまちに市民として入り、実際にまちの中の様々な職業で働きお金を稼ぎ、遊んだり買い物をしたりと楽しむことができる。
- ③ こどものまちチケット：使用者64名
500らっせ（こどものまちの仮想通貨）を長久手市内の対象店舗で店舗で使える500円分の金券に交換し、お店との新たなつながりの創出を狙っている。

2 事業の成果（事業によって解決できたこと、参加者の反応など）

- ① 実行委員会： イベントの担い手としての主体性が育まれた。 また、イベントに向けて長期的に関わる機会があり、学校や家ではない場所で他の子どもたちや運営の大人の人と関わりながら時間をかけてじっくりと取り組むことができた。
- ② こどものまち当日： 子どもたちが自ら工夫して商品を完売させるなど、社会やお金の仕組みを楽しみながら学ぶ貴重な成長の場を提供でき、多くの「楽しかった」「来年も参加したい」という声をいただく大きな成果を得られた。
- ③ こどものまちチケット： 自ら稼いだ対価を地域店舗で利用する体験を通じ、働くことと暮らしのつながりを体感させるとともに、店主ら「働く大人」との新たな出会いの機会を創出できた。地域のこどもとお店の経済循環を生むだけでなく、地域全体で子どもたちの成長を見守る良好な協力関係の構築にもつながったと考える。

3 連携した取組（連携先、事業において連携できたことなど）

- ぎふマーブルタウン（一般社団法人 Nancy）…備品協力
- 長久手市教育総務課…チラシ配布協力
- リニモテラス公益施設…会場提供
- 株式会社アサヒハウジング…木材提供
- すまいるベリーズ長久手・tori8COFFEE 長久手・ぼらぱん・Atelier Roots…こどものまちチケット協力店舗

ふりかえりシートは、A4用紙2ページ以内で記入すること。

4 問題・課題（補助事業を通して気付いた点、課題など）

- ① こども実行委員会： 募集を昨年の参加者に限ってしまったため、人数があまり集まらなかった。
- ② こどものまち当日：参加人数に対して会場の大きさが合わず、こどもたちが活動しづらい環境になってしまった。事業に対する主催者側の意図と保護者の認識にずれが生じていた点。
- ③ こどものまちチケット：使われなかったお店やお店によって利用枚数にばらつきが生まれてしまった点。
- ④ その他：運営体制に関して、学生があまり巻き込めなかった点。

5 新たな展開（今後の目標、新たに取り組みたいことなど）

- ① こども実行委員会： 実施方法の見直し。
- ② こどものまち当日：人数に対応した会場の再検討。中学生を入れるかどうか。
- ③ こどものまちチケット：店舗数や店舗のジャンルの検討。
- ④ その他：関わってくれる学生を探し、運営体制の強化。

6 補助事業の写真（補助事業の様子が分かるものを添付してください。）

写真 ※複数枚添付する場合は、各写真に数字をつけて説明を記入してください。

①



②



③



④



- ① こども実行委員会の様子。こどもたちが考えた職業やブースの準備を行っている。
- ② こどものまち当日の様子。リモテラスの約半分を貸し切り、こどもだけの空間でイベントを行った。
- ③ こどものまち当日の集合写真。参加者数約100名。
- ④ こどものまちチケットをお店で使っている様子。tori8COFFEE さんにて

ふりかえりシートは、A4用紙2ページ以内で記入すること。

令和7年度長久手市みんなでつくるまち活動補助金 ふりかえりシート

団体等名称 学生団体パラジウム(草野ゼミ)

事業名 ふくしでつながるネットワークづくり事業

※ 事業の中で複数の活動をした場合は、①、②のように番号を振り全ての活動について記入してください。

1 事業の実施結果（対象者、事業内容、参加人数など）

- ① 福祉事業所で障がいのある人たちと絵を描くワークショップ（10/7 実施）
目的：障がいのある人たちの特性を知る 場所：生活介護きらり 参加人数：5 人
- ② オリジナルカードづくりワークショップ（10/19・10/25-26・2/21 実施）
目的：障がいのある人たちが描いた絵と参加者自身の表現を組み合わせる
場所：福祉の家、名古屋学芸大学、リニモテラス公益施設 参加人数：約 200 人
- ③ これまでの活動をまとめた「ふくしでつながるアート展」の開催（2/10-25 実施）
目的：活動の経緯や成果を広く知ってもらう
場所：リニモテラス公益施設、福祉の家、地域共生ステーション 3 箇所

2 事業の成果（事業によって解決できたこと、参加者の反応など）

- ① 障がいのある人たちと一緒に絵を描くことで、言葉以外でのコミュニケーションをとることができた。同じ動作を繰り返したり、じっくり時間をかけたりなど、障がいのある人たちそれぞれの個性を知る機会となった。
- ② 障がいのある人たちが描いた絵に興味を持っていただき、カードづくりを通して子供から大人まで楽しんでもらいながら福祉啓発活動をすることができた。
- ③ 長久手市民の利用が多い施設に、これまでの活動の成果物を点在させた展覧会を実施することで、活動内容を広めることができた。

3 連携した取組（連携先、事業において連携できたことなど）

- ① 生活介護きらり、福祉課
- ② 福祉の家、リニモテラス公益施設
- ③ リニモテラス公益施設、福祉の家、地域共生ステーション(西小校区・南小校区・市が洞小校区)、長久手アートフェスティバル実行委員会

4 問題・課題（補助事業を通して気付いた点、課題など）

SNS での広報が積極的にできなかったため、もっと早くから施設の協力を依頼するべきだった。
(草野ゼミ Instagram：最高閲覧数 864 件、平均閲覧数 366 件、最低閲覧数 161 件)

ふりかえりシートは、A4用紙2ページ以内で記入すること。

5 新たな展開（今後の目標、新たに取り組みたいことなど）

5月24日(日)開催「AICHI TECH DAY 2026」ブース出店

これまで行ってきたカードづくりワークショップに加えて、愛知工業大学の技術協力により、作成したカードをモニター上で動かせるように発展させる。

9月ごろ開催予定「長久手アートフェスティバル」作品出展

6 補助事業の写真（補助事業の様子が分かるものを添付してください。）

写真 ※複数枚添付する場合は、各写真に数字をつけて説明を記入してください。

画像 1



画像 2



画像 3



画像 4



画像 6



画像 5



（写真の説明）

【画像 1・2】福祉事業所で障がいのある人たちと絵を描くワークショップ（10/7 実施）

【画像 3・4】オリジナルカードづくりワークショップ（10/19・10/25-26・2/21 実施）

【画像 5・6】これまでの活動をまとめた「ふくしでつながるアート展」の開催（2/10-25 実施）

ふりかえりシートは、A4用紙2ページ以内で記入すること。

令和7年度長久手市みんなでつくるまち活動補助金 ふりかえりシート

団体等名称 ながくて本まつり実行委員会

事業名 本でつながろうながくて本まつり事業

※ 事業の中で複数の活動をした場合は、①、②のように番号を振り全ての活動について記入してください。

1 事業の実施結果（対象者、事業内容、参加人数など）

①7/6 たなばた本まつり参加者 516 名、②11/15 語りを哲学する読書会 8 名、③11/22 刑法ポーカー体験会 8 名、④11/30 ブックポップミート 10 名、⑤12/14 ほんのり冬の本まつり 400 名、⑥1/31 語りを哲学する読書会 9 名、※ミーティング参加者述べ 100 名以上、運営ボランティア述べ 50 名以上、イベント全体を通して、述べ 1000 名くらいの交流が生まれた。参加者の年齢層は 0 才台-70 才台、本の交換数も推定 1000 冊程度

2 事業の成果（事業によって解決できたこと、参加者の反応など）

①⑤本を通して多世代が関わるイベントを行うことができた。参加者、運営者の垣根を超えて交流することができた。イベントを楽しみにしてくれる参加者も増え、回数を重ねるごとに交流が生まれた。本助成金で購入した本棚の材料をもとに、より頑丈で設置しやすい本棚やブックドライブの箱を設置することができるようになり、イベントを継続しやすくなった。②③④⑥参加者同士がより近い距離で関わることができた。

3 連携した取組（連携先、事業において連携できたことなど）

①⑤愛知学院大学総合政策学部、一般社団法人次世代育成支援機構みどりの風、長久手おやこ劇場、一般社団法人未来とコラボ、放課後等デイサービスみちくさ、学生団体しゃふくのめ、任意団体 Mojaiik、愛知淑徳大学 CCC、長久手市国際交流協会、②⑥愛知医科大学、③任意団体 Mojaiik、④愛知学院大学総合政策学部

4 問題・課題（補助事業を通して気付いた点、課題など）

リモテラスの使い方。本を通じた関わりなどで、コアな参加者を大事にする取り組み。より、本にフォーカスしてイベントを開催したい。また、参加者の動線にも配慮したイベント作りに取り組みたい。

ふりかえりシートは、A4用紙2ページ以内で記入すること。

5 新たな展開（今後の目標、新たに取り組みたいことなど）

イベントのあり方の見直し。ワークショップなど、本を好きな人をより繋げる取り組みを行いたい。これまではにぎやかなイベントを目指していたが、ゆっくりくつろいで本に触れられるようなイベントを作っていきたい。

6 補助事業の写真（補助事業の様子が分かるものを添付してください。）

写真 ※複数枚添付する場合は、各写真に数字をつけて説明を記入してください。



正面は音楽ステージ。英語絵本の読み聞かせを行なっている。

右側は本棚、ワークショップ・老若男女が本を通して関わることができた。

令和7年度長久手市みんなでつくるまち活動補助金 ふりかえりシート

団体等名称 特定非営利活動法人つづら

事業名 ちんどんカーでフィットネスサロンへGO!

※ 事業の中で複数の活動をした場合は、①、②のように番号を振り全ての活動について記入してください。

1 事業の実施結果（対象者、事業内容、参加人数など）

- | | | | |
|-------------|-----|-------|----------|
| ① 北共生ステーション | 高齢者 | お手玉体操 | 延べ 171 人 |
| ② つづら古民家 | 高齢者 | お手玉体操 | 延べ 49 人 |
| ③ 東浦地区 | 高齢者 | お手玉体操 | 延べ 26 人 |

2 事業の成果（事業によって解決できたこと、参加者の反応など）

- | |
|--|
| ① 開始当初の6月は9人の参加者だったが3か月後の9月は20人の参加があり、以後ほぼ毎月20人の参加者である。 |
| ② 古民家で午前中にパン作りをして、午後はお手玉体操に参加した。北共生ステーションの参加者が古民家にも来て参加した。 |
| ③ 事務所がある東浦地区は参加者が少なかったが、毎月参加された方は熱心に取り組まれていた。 |

3 連携した取組（連携先、事業において連携できたことなど）

※①から③共通 長久手シニア支援隊

- | |
|---|
| ① 北小校区まちづくり協議会の福祉部会がイベント時、ちんどんカーを利用して地域の方に広報した。 |
| ② 古民家では他のサロンも開催しているので、参加者が興味を示した。 |
| ③ つづら事務所の近くにある千の風（土屋さん）が場所を提供してくださり、交流が生まれ知人にも体操を紹介してくださった。 |

4 問題・課題（補助事業を通して気付いた点、課題など）

- | |
|---|
| ① お手玉体操は皆さんが自分のペースで体操ができて体力維持につながった。 |
| ② 古民家が空いている曜日があるので、活用できるシステムにしたい。 |
| ③ 地域の集会所は手続き上、利用できず当初の計画通り行えず、みなさんに周知ができなかった。ちんどんカーの納車がメーカーの都合により納車が遅れた。また寒い時期に入り運行が難しくなった。 |

ふりかえりシートは、A4用紙2ページ以内で記入すること。

5 新たな展開（今後の目標、新たに取り組みたいことなど）

- ① 令和8年4月からもお手玉体操を継続して行っていく
- ② 古民家に来ている方にも体操を通じて体力維持できるように働きかける
- ③ 東浦地区でちんどんカーを走らせて皆さんが外出できる機会を増やす

6 補助事業の写真（補助事業の様子が分かるものを添付してください。）



（写真の説明）

北小校区共生ステーションで行ったお手玉体操の様子